



答志と和具では全ての家に「まるはち」が描かれています。これは八幡神社の魔除けのしるしで、大漁祈願や家内安全の意味があります。年に1度行われる神祭の神事で使われた墨を使って描きます。

寝屋子制度

15歳になった男子が組をつくり、親代わりとなる人(寝屋親)の家へ毎晩泊まりに行く制度。10年ほど続けた後に解散しますが長い時間を共にすごした義親子、義兄弟の信頼関係は一生続きます。このようなかつて日本全国で見られた若衆宿の風習は現在答志島の答志地区にのみ残ります。

現在では海底を水道が通っているので本工と同じように水道水を使用することができますが、かつては井戸水が生活用水でした。地下から汲み上げる井戸では海水がまじることもありましたが、山の水が流れ出るここ西湖の井戸の真水は重宝され、産湯にも使われていたのだそうです。

西湖の井戸

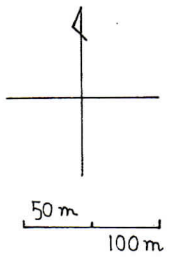
美多羅志神社

本殿は20年ごとに建て替えられています。拝殿に敷かれた白石は、そこが神聖な場であることを表していると同時に、子の百日参りの際に母親が浜で拾い集めた白石を12個奉納するため、子の成長を願う母の愛情が込められた石を大切に思う気持ちから島民は土足をぬいで参拝しています。

答志島の基本データ  
面積：6.98km<sup>2</sup>  
人口：2041人(2019年2月)  
半数以上が農業従事者

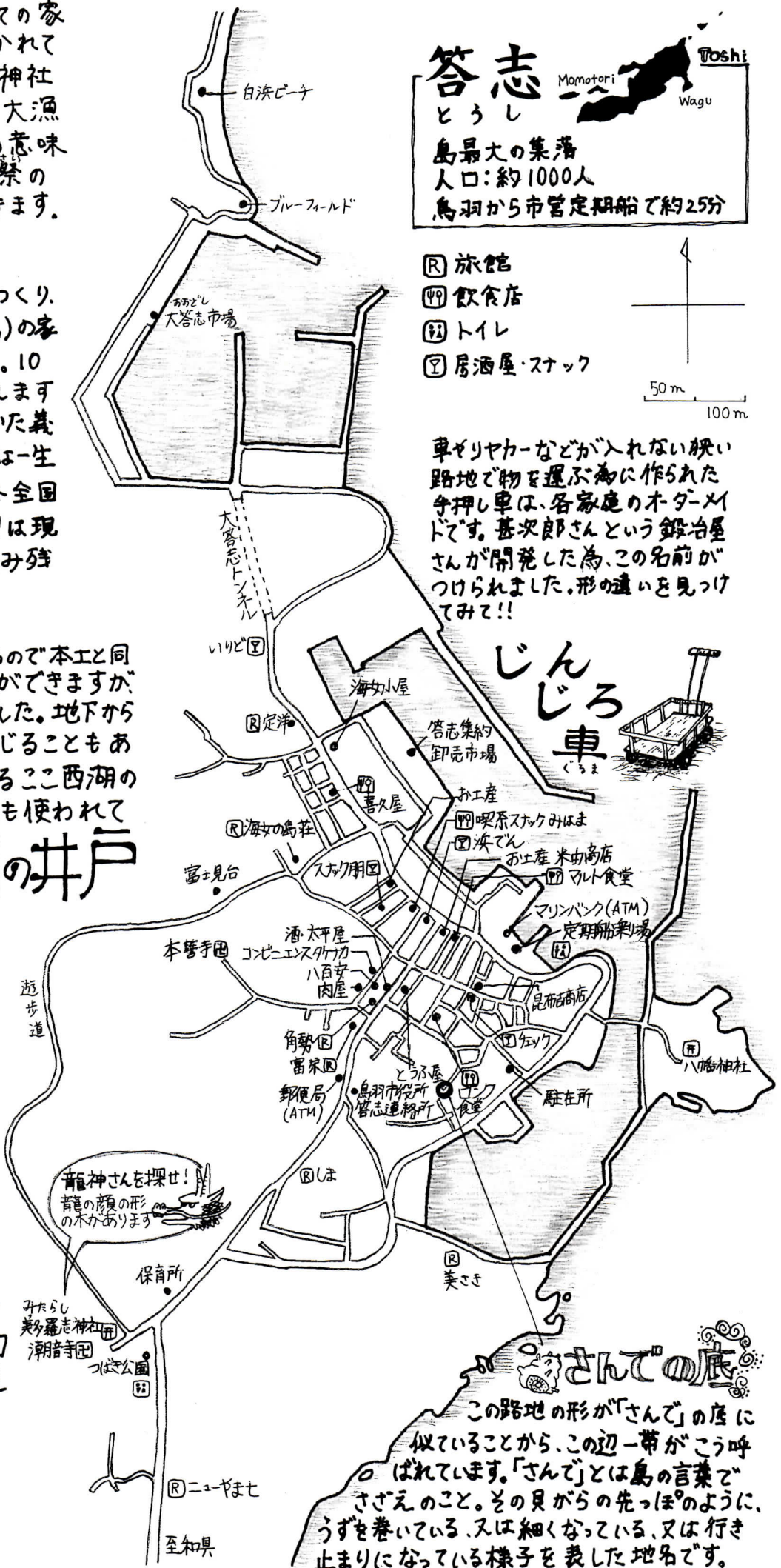
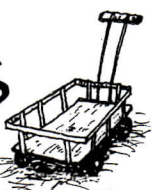
**答志** どうし  
島最大の集落  
人口：約1000人  
島羽から市営定期船で約25分

- Ⓡ 旅館
- Ⓢ 飲食店
- Ⓣ トイレ
- Ⓥ 居酒屋・スナック



車やリヤカーなどが入れない狭い路地で物を運ぶ為に作られた争押し車は、各家庭のホウダイです。甚次郎さんという鍛冶屋さんが開発した為、この名前がつけられました。形の違いを見つけ比べて!!

じんじろ車



さんでの底  
この路地の形が「さんで」の底に似ていることから、この辺一帯がこう呼ばれています。「さんで」とは島の言葉で「さざえ」のこと。その貝がらの先っぽのように、うずを巻いている、又は細くなっている、又は行き止まりになっている様子を表した地名です。